

スクールカウンセラーだより 8



まもなく冬休み。何かと気ぜわしくなる時期ですね。

忙しい時期だからこそ、子ども達にお手伝いをさせませんか。

一緒に何かをする時間、楽しむ時間と考えれば、忙しい時間も楽しめるかもしれません。

お手伝いは、子どもの経験を豊かにし、自信を持たせるものだと思います

毎年、年末になると、お手伝いの事を書きますが、子どもにも家族の一員として役割を持たせることが大切ですね。また、来客などがあった場合、挨拶などの礼儀も教える絶好の場です。

社会性を高めていくという大切な時間です。

子どもたちは年齢に合った経験値が必要で、それがないと自信は高まりません。

小学校低学年ならばスーパーで自分の好きなものを選ばせたいし、

中学年ならば、頼んだものをカゴに入れさせたい、

そして高学年ならば、レジで支払いを済ませ自宅に戻りたい。



料理は想像性や要領を学ぶチャンスですが、高学年までには何か一品を作れるようになってほしいですね。そういうことの積み重ねで社会に出ても困らないようになっていくのだと思います。

また、積極的に地域の行事などにも参加し、地域の人とも関わられるようになっておきたいですね。

どこまでできるかは子どもの様子によって違います。

子どもを守るだけでなく、いろいろな事にチャレンジする場を用意する事も必要かなと思います。

「自分を愛して欲しい・・・」

これは数年前に面談した小学校中学年の女の子のコメントです。

「お母さんが大変なのは良くわかる。でも、私を見て欲しい。認めて欲しい。私を愛して欲しい。」というコメントでした。

自分の寂しさへの思いとともに、お母さんへの気遣いも含まれています。

勿論、お父さんだって同じことです。

その子は、愛して欲しいという強い思いとともに、あきらめのムードもありました。

自分を傷つけるような行為もありました。

親も忙しいのは事実です。関わってあげたくても、その余裕がないのもわかります。

でも、子どもと関わるのは、時間の長短ではなく、濃さだと思います。

たった5分、手を休めて話をしても良いし、何かを一緒に行うでも良いでしょう。

年末年始、ほんのわずかでも時間を取り、子どもと一緒にゆっくりと過ごして欲しいと思います。



SNSの危険性はわかってはいるが・・・トラブルの背景にあるもの・・・

SNSが全て悪いものとは思いません。上手く使えば便利なものです

でも、危ない事も多く、SNSの危険性は様々なところで言われています。

学校でも子供たちに危険性の話はしますし、授業などでも良く話されています。

でも、実際は小学校高学年から中学生にかけては、

かなりの割合で規制が無い状態でSNSにつながっています。



親がパスワードなどで規制しても、子ども達は簡単にパスワードを抜けていきます。

SNS に繋がってしまう背景は、自分の居場所がない、
認めてくれる人がいない、理解してくれる人がいない、
話せる人がいないという現実があります。

そこを埋めなければ SNSトラブルは減りません。

年末年始にかけて、自由な時間が増える子もありますが、その時間をどう過ごすかは、
子どもの心を埋める事につながるのではないのでしょうか。
スマホを、子どもをあやすおしゃぶりと考え「デジタルおしゃぶりを外せない子どもたち」
という言葉も生まれているようです。

子ども達が求めているのは SNS よりも、リアルに話せる存在のようにも思います。



子どもへのまなざし

幼児教育をやっていると、大人が子どもにみせる表情によって、
子どもたちの行動が変わってくるという事が言われます。

大人がしっかり子どもの表情を見てあげる事で、子どもとの信頼関係が結ばれ、
愛着形成ができ、子ども達も安心して様々な事にチャレンジできるわけです。

逆に、子ども達の表情を見ないでいると、子どもとの信頼関係も薄れてしまい、
未熟な愛着形成となり、不安感の高い子になるようです。

勿論、個人差はあります。

ただ、子ども達の顔を見て、表情豊かに語り掛けていく事の大切さは様々なところで言われます。
これは幼児教育だけでなく、思春期になっても同じで、
ゆっくりと話ができる時間を大切にしていきたいと思います。

子どもと話せる時間を、後回しにすると、その大切な時間は戻ってこないかもしれません。



それぞれのタイプの違いを意識したい

カウンセラーは昔から落ち着きがないと言われていました。良く言えば行動力があるという事で
すが、決められたとおりに行うのは苦手でした。その為、周りは大変だったようです。

一方、仲の良かった友人は、言われたことはきちんとやれるタイプで、真面目で正直ですが、
急な変更にも弱く、自分で自由に考えていく事は苦手なタイプでした。

子どもによって得意な事や苦手な事は違います。そこを理解していく事が大切ですね。

誰でも苦手なことがあり、ときには失敗してしまうことがあります。

そして、周りは失敗を減らせるようにと、

苦手な事のトレーニングばかりを考えてしまいます。

子どもにとっては苦手な事や嫌な事をずっとトレーニングさせられるわけですから、
できない自分をずっと意識し続け、自信を失う事にもなるかもしれません。

勿論、苦手なことからの失敗は減らしたいです。

でも、その子の良さにも注目していきたいです。

苦手なことを諦めるわけではなく、得意な事に自信が持てるようになると
表情にも違いが出てくるように思います。

子どものタイプの違いも意識していく事も大切ですね。

